

分野	専門分野	担当者（職種）	上野絵未（専任教員）
授業科目	地域・在宅看護概論	実務経験	有（医療機関に10年以上勤務）
		単位数（時間数）	1単位（30時間）
対象学年・学期	1学年・前期～後期	DPとの関連	DP4
授業の目的	地域で生活する人々とその家族を理解し、地域における多様な場での看護を提供するために必要な知識を学び、地域において多職種連携・協働する中での看護の役割を学ぶことを目的とする。		
授業の概要	講義を通して、地域包括ケアシステムにおける看護師の役割とそれを遂行するために必要な基本的知識を身につける。また、「地域を知る」でのフィールドワークや地域・在宅看護論実習Ⅰ（地域）での学びを想起しながら、地域で生活する人々や家族、多様な生活の場を理解するとともに、社会全体で地域の人々がどのように支えられているか、地域における看護の役割を具体的にイメージできるよう構成する。また、DVD教材などを利用して、地域包括ケアシステムにおける多職種との連携や入退院などに伴う継続看護などについて理解できるよう構成する。		
授業計画（回・内容・授業形態）		学習内容	授業形態
	1～3回	地域の暮らしを支える看護とは くらしのなかにある看護／地域のなかにあるくらし 地域・在宅看護の概念 地域・在宅看護の基盤／地域療養を支える在宅看護の役割・機能 地域・在宅看護の背景／地域・在宅看護における倫理	講義・DVD Gワーク
	4～6回	在宅療養者と家族の支援 地域・在宅看護の対象者／在宅療養の場における家族のとらえ方 在宅療養者の家族への看護	講義・DVD Gワーク
	7～9回	地域包括ケアシステムと多様な生活の場における看護 地域アセスメント／地域包括ケアシステム 療養の場の移行に伴う看護 地域包括ケアシステムにおける多職種・多機関連携 在宅看護におけるケースマネジメント／ケアマネジメントの概要	講義・DVD Gワーク
	10～11回	地域療養を支える制度 社会制度の活用／医療保険制度／後期高齢者医療制度／介護保険制度 生活保護制度／障害者に関連する法律／難病法 子どもの在宅療養を支える制度と社会資源／その他	講義・Gワーク
	12～13回	在宅療養を支える訪問看護 訪問看護の特徴／在宅ケアを支える訪問看護ステーション 訪問看護サービスの展開／訪問看護の記録	講義・DVD
	14回	アドバンスケアプランニング（ACP；意思決定支援）	講義・Gワーク
	15回	まとめ 筆記試験	
使用テキスト	ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版		
参考図書	家族看護を基盤とした 地域・在宅看護論 日本看護協会出版会 家族看護学 家族のエンパワメントを支えるケア メディカ出版 国民衛生の動向 厚生労働統計協会（全年度発行）		
評価方法	筆記試験（90点）・講義・グループワークへの取り組みや参加状況（10点）の総計とする ※授業科目の授業時間数 2/3 以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60点以上を合格とする		
履修上の注意	1) 自分自身や家族の生活を振りかえって講義の内容と照らし、地域・在宅看護の特徴を考えながら学習すること授業に意欲的に参加し、理解を深めること 2) 毎回、テキストの該当ページを通読して授業に臨むこと		

分野	専門分野	担当者（職種）	上野絵未（専任教員）
授業科目	地域を知る	実務経験	有 (医療機関に10年以上勤務)
		単位数（時間数）	1単位（15時間）
対象学年・学期	1学年・前期	DPとの関連	DP4
授業の目的	地域に生活する人々や地域の特徴を理解するとともに、地域で暮らす利便性や困難さ、環境や生活と健康との関係性などを学ぶことを目的とする。		
授業の概要	<p>以下①②の方法でフィールドワークを行う。</p> <p>①宇和島地域の様々な住所地で生まれたと仮定した住民が成長発達し、いずれ老いとともに生きていくことを想定して、学校や病院・スーパーなどその生活圏内を実際に歩く・移動するなどし、交通量や地面の歩きにくさ、要する時間等を体験してみる。その中で出会った近隣に暮らす人々から、現在の生活の様子、生活上・健康上の課題や今後の不安などについて聞き取り調査を行う。</p> <p>②近隣の地区民生委員、自治会長、社会福祉協議会、コミュニティナース、地域包括支援センター、市役所の保険健康課、保護課へ赴き、地域および住民の特徴、生活上・健康上の課題などについて聞き取り調査を行う。</p> <p>学内でグループワークを行うことで、地域に暮らす人々や地域の特徴、生活上・健康上の課題や不安などについての学びを共有する。最後にグループワークを行い、地域で生活する人々を支えるために自分たちにできることは何かを話し合う。</p>		
授業計画（回・内容・授業形態）	学習内容		授業形態
	1回	<p>1. 地域と生活／地域・在宅看護の背景</p> <p>2. 科目の学習の進め方について、全体説明</p> <p>1) フィールドワークについて（目的・方法など）</p> <p>2) グループ編成（2～3名×8G）</p> <p>3) 看護学生として、訪問者としての態度について</p>	<p>講義・Gワーク</p> <p><u>テキスト①</u></p> <p><u>P14～20</u>を<u>読んでくること</u></p>
	2回	<p>グループワーク（学内）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に会って聞きたいことのインタビューシート作り ・指定された住所地をもとにした活動計画 	Gワーク
	3回	<p>3. フィールドワーク①</p> <p>1) 地区踏査（学校や病院、郵便局、スーパーなどの探索）</p> <p>2) 出会った地域住民からの聞き取り調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の生活の様子、暮らしにくさ ・生活上・健康上の課題や今後の不安など 	フィールドワーク
	4回	<p>グループワーク（学内）</p> <p>1) フィールドワーク①についてのまとめ</p>	<p>Gワーク</p> <p>PowerPoint等を用いて、わかりやすく伝える工夫をする</p>
	5回	<p>学びの共有（発表）</p> <p>1) 宇和島地域や住民の特徴、生活上・健康上の課題など</p>	
6回	<p>4. フィールドワーク②</p> <p>1) 地域の特徴についての聞き取り調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境や生活と健康との関係性、生活上・健康上の課題など 	フィールドワーク	

7回	グループワーク（学内） 1) フィールドワーク②で得た情報の整理とまとめ 以下の視点でまとめる ・地域住民の生活の様子 ・その地域の暮らしにくさや利便性 ・生活上・健康上の課題、今後の不安など	Gワーク PowerPoint等を用いて、わかりやすく伝える工夫をする
8回	学びの共有（発表） 5. 地域を支えるために自分たちにできること グループワーク ⇒ 発表	後日 最終レポート提出
使用テキスト	① 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 [1] 地域・在宅看護の基盤 医学書院 ② ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版	
参考図書	家族看護を基盤とした 地域・在宅看護論 日本看護協会出版会 国民衛生の動向 厚生労働統計協会（全年度発行）	
評価方法	レポート採点 50 点、グループ発表に対する学生間の相互評価と教員評価 50 点（計 100 点）による評価とする。 ※授業科目の授業時間数 2/3 以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60 点以上を合格とする。	
履修上の注意	看護学生としての自覚をもち、礼儀正しい挨拶や言葉遣いを心掛けること。	

分野	専門分野	担当者	福島貴子・節安美孝・末廣瞳（保健師）	
授業科目	地域保健論	実務経験	有 （公的機関に15年以上勤務）	
		単位数（時間数）	1単位（30時間）	
対象学年・学期	2学年・前期	DPとの関連	DP4	
授業の目的	<p>地域で生活する人々とその家族の健康の保持・増進、また健康課題の解決に向けた看護の役割を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域包括ケアシステムにおける看護の対象（個人・家族・集団・組織）とその多様性を理解できる。 2. 地域住民を取り巻く社会の変遷および現状、施策（保健・医療・福祉の動向）について理解できる。 3. 地域における健康の保持・増進また健康課題の解決に向けた保健活動について理解できる。 4. 地域包括ケアシステムにおける多職種との連携・協働の必要性について理解できる。 			
授業の概要	<p>地域における個人・家族・集団および組織の健康の保持・増進また健康課題を解決するための支援のあり方をライフステージ別に学習する。また、支援するにあたって多職種と連携・協働することの必要性を考える内容とする。</p>			
授業計画（回・内容・授業形態）		学習内容	形態	担当
	第1～5回	<p>1. 地域における母子保健活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもと家族の動向 2) 子どもと家族を取り巻く社会 3) 子どもの虐待と看護 4) 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 母性看護の提供システム 	講義 Gワーク	末廣
	第6～9回	<p>2. 地域における成人保健活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 生活と健康 成人を取り巻く環境と生活からみた健康 生活と健康をまもりはぐくむシステム 2) ヘルスプロモーションと看護 3) 健康をおびやかす要因と看護 	講義 Gワーク	福島
	第10～13回	<p>3. 地域における高齢者保健活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 超高齢社会と社会保障 超高齢社会の統計的輪郭、高齢社会における保健医療福祉の動向、 高齢者の権利擁護 2) 生活・療養の場における看護 地域における高齢者への看護 	講義 Gワーク	節安
	第14回	<p>4. 地域における精神・障害者（児）に対する保健活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 精神科領域で必要な生活を支えるための法律と制度、個別の課題に 対応した法律 2) おもな精神保健医療福祉対策とその動向 自殺対策／依存症対策 	講義 Gワーク	福島
	第15回	まとめ 筆記試験		
使用テキスト	<p>系統看護学講座 専門分野 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学総論 医学書院 系統看護学講座 専門分野 精神看護の基礎 精神看護学① 医学書院 系統看護学講座 専門分野 老年看護学 医学書院 国民衛生の動向 厚生労働統計協会</p>			
参考図書				
評価方法	<p>筆記試験（100点満点）により評価する。 ※授業科目の授業時間数2/3以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60点以上を合格とする。</p>			
履修上の注意	※ 毎回、テキストを通読して授業に臨むこと			

分野	専門分野	担当者	上野絵未（専任教員） 今井理恵（保健師）		
授業科目	地域・在宅看護援助論Ⅰ （日常生活を支える看護）	実務経験	有（医療機関・公的機関に10年以上勤務）		
		単位数（時間数）	1単位（30時間）		
対象学年・学期	1学年・後期	DPとの関連	DP1～5		
授業の目的	<p>地域で生活する人々に対するセルフケア能力を高めるための指導技術、及び既習した基礎看護技術を在宅における看護に応用する方法を学ぶことを目的とする。</p> <p>（授業目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で生活する人々の健康の保持増進に向けたセルフケア能力を高める指導技術について理解できる。 2. 在宅療養を支える日常生活の援助の特徴や社会資源の活用について理解し、生活の場で実践するための物品や方法の工夫を学ぶ。 				
授業の概要	<p>地域で生活する人々の健康の保持と増進に向けたセルフケア能力を高めるための指導技術について、グループワークと発表を通して学ぶ。</p> <p>講義を通して、在宅看護に必要な看護技術について理解する。排泄と清潔援助については、グループ演習で事例への看護技術を展開し、在宅への応用について考える。食事については、在宅療養での食べることの意義について考える機会をもつ。</p>				
授業計画（回・内容・授業形態）		学習内容	形態	担当	
	1回	1. 地域で生活する人々の健康の保持・増進に向けたセルフケア能力を高める指導技術 自己紹介／発表するテーマの選定	講義	今井	
	2～3回	個別と集団の指導について 発表に向けてのグループ決めとグループ学習	講義 Gワーク		
	4～5回	発表に向けてのグループ学習	Gワーク		
	6～7回	発表に向けてのグループ学習と発表	Gワーク 発表		
	8回	反省と考察	講義		
	9～10回	2. 日常生活を支える看護技術 1) 在宅療養生活を支える基本的な技術 コミュニケーション／在宅におけるアセスメント技術 環境整備／生活リハビリテーション／感染予防	講義・ DVD	上野 テキスト 1.2	
	11回	2) 日常生活を支える看護技術 (1) 食生活 在宅療養の場における食生活の特徴 食に関する包括的アセスメント／援助の技術と実際 トラブル時の対応／社会資源の活用	講義 DVD Gワーク		
	12回	(2) 排泄 在宅療養の場における排泄の基本／排泄のアセスメント 援助の技術と実際／社会資源の活用と調整 (3) 清潔 在宅療養の場における清潔の特徴／清潔のアセスメント 清潔ケアの技術と実際／社会資源と多職種連携	講義 Gワーク		
	13回	(4) その他の援助技術 肢位の保持と移動／呼吸／睡眠 リフト	講義 演習		
	14回	入浴・シャワー浴	演習		
	15回	まとめ 筆記試験			
	使用テキスト	<ol style="list-style-type: none"> 1 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版 2 ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版 			
	参考図書	家族看護を基盤とした 地域・在宅看護論 日本看護協会出版会			
評価方法	「指導技術」（30点）、筆記試験（60点）、「授業への参加状況、技術演習への取り組み状況」（10点）の総計とする。				

	※授業科目の授業時間数 2/3 以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60 点以上を合格とする。
履修上の注意	既習の技術を応用し在宅看護の援助技術が習得できるよう積極的に取り組む。

分野	専門分野	担当者	上野絵未（専任教員） 瀬川飛鳥（看護師）	
授業科目	地域・在宅看護援助論Ⅱ （療養生活を支える看護）	実務経験	有(医療機関に10年以上勤務)	
		単位数（時間数）	1単位（30時間）	
対象学年・学期	2学年・前期	DPとの関連	DP1～5	
授業の目的	<p>地域で療養する人々とその家族の療養生活を支える医療ケアについて理解し、退院に向けての支援のあり方や在宅療養中の指導及び看護の実践に役立つ基礎的知識を学ぶことを目的とする。</p> <p>1. 在宅で行われる主な医療ケアについて理解できる。 2. 医療的ケアに関する退院前後や在宅療養中の本人家族への支援のあり方について理解できる。 3. 在宅療養における医療ケアの看護上の留意点について理解できる。 4. これまでに学んだ日常生活の援助技術と医療ケアを踏まえて、状態に応じた援助を計画することができる。</p>			
授業の概要	<p>地域での療養生活を支える医療ケアについてグループワーク・発表を通して理解し、それを踏まえてさらにグループワークを行うことで退院に向けて必要な支援や在宅療養における訪問時の看護の留意点等を検討し、入院中から地域へ帰ることを意識した支援が必要であることを考える内容とする。</p>			
授業計画（回・内容・授業形態）		学習内容	形態	担当
	1回	1. 療養を支える看護技術（医療ケア） 1) 医療ケアの原理原則 2) 食生活を支える医療的ケア (1) 経管栄養法 経鼻胃チューブの挿入、経管栄養の注入 (2) 輸液管理 在宅中心静脈栄養法・末梢静脈栄養法	講義 DVD	上野 テキスト②③
	2～3回	(3) 経管栄養注入と経鼻胃チューブ挿入 の実際	演習	
	4回	2) 排泄を支える医療ケア (1) 排便・浣腸 (2) ストーマ（人工肛門・人工膀胱） (3) 自己導尿／膀胱留置カテーテル	講義 DVD	
	5回	(4) 排便の実際 （腹部マッサージ、陰部洗浄・おむつ交換含む）	演習	
	6回	2. 医療ケアを必要とする在宅療養者とその家族への支援 1) 演習の進め方（説明） ⇒ グループワーク	Gワーク 発表・ DVD	
	7～9回	グループワーク発表；1)～5) 発表の視点（下記①～⑦） ①意義・目的・適応 ②方法 ③留意点 ④起こりやすいトラブルと観察のポイント ⑤在宅療養中（訪問時）の本人家族への支援のポイント ⑥社会資源の活用・調整、多職種連携 ⑦（入院中）退院に向けて必要な支援のポイント 1) がん外来化学療法／薬物療法 2) 排痰ケア／在宅酸素療法（HOT） 3) インスリン自己注射管理／足病変のケア／褥瘡管理 ／在宅CAPD管理 4) 気管カニューレ管理／在宅人工呼吸療法（HMV） 非侵襲的在宅人工呼吸療法（NPPV） 気管切開下観血的在宅人工呼吸療法（TPPV） 5) 疼痛緩和		
	10～11回	地域・在宅看護の療養 時期別看護 予防段階および外来・入院時の看護の実際 在宅療養（準備期・移行期・安定期・急性増悪期）の看護の実際 在宅療養を支える健康危機・災害対策		講義 DVD テキスト②③

12 回	終末期の看護 ターミナルケア	講義 テキスト②③	瀬川 テキスト①② ③
13 回	在宅での医療機器使用による呼吸管理の実際 排痰ケア／吸引／在宅酸素療法／気管カニューレ 人工呼吸器／呼吸器障害のリハビリテーション	講義 テキスト②	
14 回	難病患者の看護 在宅における難病患者の理解 難病患者の看護、家族への支援 緊急時の対応（災害時の対応）	講義 テキスト①②	
15 回	まとめ 筆記試験		
使用 テキスト	①ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版 ②ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養 ③ 系統看護学講座地 専門分野 地域・在宅看護論 [2] 地域・在宅看護の実践 医学書院		
参考図書	家族看護を基盤とした 地域・在宅看護論 日本看護協会出版会 知識が身につく実践できるよくわかる在宅看護 学研メディカル秀潤社		
評価方法	筆記試験（70点）、講義・演習・グループワークへの取り組みや参加状況（10点）およびグループ発表に対する学生間の相互評価と教員評価（20点）の総計で評価する ※授業科目の授業時間数 2/3 以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60点以上を合格とする。		
履修上の 注意	既習の学習内容や技術も踏まえて考えること グループワークへ積極的に参加すること 毎回、テキストを通読して授業に臨むこと		

分野	専門分野	担当者	上野絵未（専任教員） 今井理恵（保健師）	
授業科目	地域・在宅看護 援助論演習	実務経験	有（医療機関・公的機関に10年以上勤務）	
		単位数（時間数）	1単位（30時間）	
対象学年・学期	2学年・後期	DPとの関連	DP1～5	
授業の目的	<p>地域で療養する人々とその家族に対する生活の場での看護を展開する方法、及び事例や場面に 応じた援助方法や物品の工夫を学ぶことを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 事例を通して、対象把握の重要性が理解できる 2. 家庭訪問における看護師の態度を身につける 3. 在宅看護過程の特徴および考え方を理解できる 4. 事例に対する看護過程の展開ができる 5. 生活の場での援助方法や物品を工夫する必要性を理解できる。 			
授業の概要	<p>ロールプレイによる家庭訪問体験を通して、家庭訪問における看護師の態度について考える機会をもつ。</p> <p>訪問看護における看護過程の特徴・考え方を学ぶ。そのうえで事例に対する在宅看護過程を展開する。看護過程の展開は基本的に個人ワークで行い、グループワークで意見交換し理解を深める。また、事例を用いて対象に応じた、多様な社会資源の活用についてグループワークを行い、保健・医療・福祉のチームにより、どのように支えていくのかを考える機会とする。また、事例や場面設定などにより、生活の場での援助方法や物品の工夫についてグループで検討し実践する機会をもつ。</p>			
授業計画（回・内容・授業形態）	学習内容		形態	担当
	1回	1. 在宅看護の倫理と基本理念 2. 地域における初回家庭訪問 （対象の理解とアセスメント） ロールプレイについて；説明	講義 Gワーク	今井 テキスト②
	2～4回	発表に向けてのグループワーク	Gワーク 講義	
	5～6回	初回家庭訪問のロールプレイ 発表 質問力	発表 まとめ	
	7～8回	3. 在宅療養における看護過程の展開技術 1) 在宅療養における看護過程の特徴 2) 在宅におけるヘルスアセスメント 3) 情報収集の項目とアセスメントのポイント 4) 在宅療養における看護過程の展開のポイント 5) 実施と評価 <u>事例提示</u> ①情報収集 ②アセスメント ③関連図；個人ワーク	講義 個人 ワーク	上野 テキスト ①②
	9回	※授業までに、各自 看護計画（初回訪問後）を立案する。 Gワーク；③関連図・④看護計画について発表・意見交換 Gワークを踏まえて、下記④を検討し、発表 ④看護計画（初回訪問後）	Gワーク 発表	
	10回	4. 実施・結果、評価 （1）対象の状態や場面に応じた清潔援助の方法と物品の工夫 ①洗髪器による洗髪 （ほか、洗髪器がない場合の方法の検討） ②更衣（丸首パジャマ／前開きパジャマ） ③陰部・臀部洗浄・おむつ交換 ④手浴・足浴	Gワーク	
	11～12回	援助技術のグループ発表（学生間の相互評価） 5. 評価 （1）援助の振り返り	演習 発表	

	(2) 技術および、方法の振り返り ※Gワークでの意見をもとに、各自追加修正し、最終提出する※		
13～14回	6. 対象の状況に応じた退院支援のポイント、社会資源の活用 事例提示 1) 対象の状況に応じたケアプラン作成 (社会資源の活用方法) 2) 退院に向けての看護援助のポイント (方向性・看護の役割)	Gワーク	
15回	発表：ケアプラン・退院に向けての看護援助 (学生間の相互評価)	発表	
使用テキスト	①ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア メディカ出版 ②ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版		
参考図書	ICF モデルを用いた在宅看護過程の展開 改訂版 ふくろう出版 看護判断のための気づきとアセスメント 地域・在宅看護 中央法規出版 強みと弱みからみた 地域・在宅看護過程+総合的機能関連図 医学書院 現場に学ぶ・現場で活かせる 訪問看護アイデアノート 照林社		
評価方法	「初回家庭訪問」(30点)、「看護過程」(45点)、「G発表に対する学生間の相互評価と教員評価」(10点×1回、5点×2回)「グループワークへの取り組みや参加態度」(5点)の総計で評価する ※授業科目の授業時間数 2/3 以上の出席にて受験資格あり。但し、出席時間数が基準に達しない場合は、補習等により修了していること。60 点以上を合格とする。		
履修上の注意	既習の学習内容や技術も踏まえて考えること グループワークへ積極的に参加すること		